

J-SHINE小学校英語上級資格者
神戸市教育委員会イングリッシュ・サポーター、
株式会社留学ジャーナル 留学カウンセラー、公立中学校
講師を経て、2002年より小学校英語活動に携わる。
担任の先生とのTTでの支援は今年で8年目となる。

J-SHINE 通信

2015年6月号



倉田容子 さん

今回は兵庫県神戸市の小学校で、国際交流活動のお手伝いから始まり、その後イングリッシュサポーターとして、担任の先生を支え授業の支援を長年されている倉田さんの実践報告です。

■ J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ、 小学校英語との関わり

小学校英語に関わることになったきっかけは、国際交流活動のお手伝いからです。

2001年、息子たちが通っていた神戸市立桂木小学校が、オーストラリアの州立小学校と姉妹校提携を結びました。学校が交流のお手伝いをする保護者ボランティアを募った時、海外経験と英語を生かせることに魅力を感じ、保護者で「国際交流部」を立ち上げてそのメンバーとなりました。相互訪問のための学校間のコーディネートや、訪豪に向けて児童に英語研修をしたりする中、交流部メンバーの一人がJ-SHINEの指導者資格を持っていることがわかりました。

当時の桂木小学校は英語活動が始まったばかりで、どのように現場に関わることができるのか未知数でしたが、いつか資格を生かせる日が来ることを願って指導者資格を取得しました。

国際交流のお手伝いと二本立てで、「英語でショッピング」「修学旅行での外国人インタビュー」といった単発のイベントに外国人役で参加しているうちに、当時の教頭先生が「担任の先生とチームティーチングで授業をしていただけませんか？」と声をかけてくださいました。桂木小学校のすべての英語活動には、ALTかイングリッシュ・サポーターが必ず担任教員と指導できるように、現在に至っています。

やがて小学校での総活動時間数が200時間を超えたタイミングで、資格更新の際に上級指導者資格を取得しました。

■ 現在の活動状況、学校現場の様子

現在の活動状況は

- ①地域人材として関わっている神戸市立桂木小学校の支援
 - ②神戸市教育委員会派遣のサポートリーダーとしての支援
- この2本立てになっています。

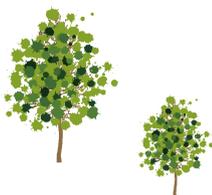
①の桂木小学校については、来月のJ-SHINE通信7月号に寄稿される林由香先生にお願いする事にして、②について述べてみたいと思います。

教育委員会派遣のサポートリーダーとして、指定された小学校1校につき年間3回（1日3時間の授業）でお手伝いに行かせていただいています。私が担当している地域は単学級がほとんどなので、3時間異なった学年に入ります。（たとえば1時間目5年生、2時間目6年生、3時間目2年生といった具合です。学校規模によっては年7～8回というところもありますが、学校規模が単学級の場合、年3回となります。）

活動内容の打ち合わせは前日～数日前で、それは担任の先生（以下HRT）とではなく、たいていプランを作成される英語担当の先生としています。

初日の授業はほとんどのHRTと初対面であるため、どこまで前面に出られるかは始まってみないとわからないことが多々あります。HRTがどのように私を使おうと思ってるか、メインなのかサブなのかを授業が始まった数分のうちに見極め、HRTの役割が80%なら私は20%、逆にHRTが30%なら私は70%と、その時々で柔軟に自分のポジションを変え、合わせるようにしています。

ALTとHRTの3人体制で活動をする時は、ネイティブの発音を聞けることはもちろん、ALTの国の文化や生活習慣を子どもたちが学ぶことのできる絶好の機会です。基本的な流れはプラン通りですが、時間が許す限りALTに促して、子どもたちが世界のことを知り、国際理解を深めてもらうことができるように手助けしています。



授業中に心がけていることは、児童が発表するときは、HRTに当ててもらふことです。というのも、子どもたちの様子を一番わかっているのがHRTだからです。当てられて張り切る子もいれば、何も言えなくて泣きそうになる子もいます。ほかの教科では手が挙げられない子が、英語の時間だけはがんばって手を挙げているかもしれません。一人ひとりの子どもたちの活躍の場を引き出してあげられるのは担任の先生しかできないことなので、いつも指名をお任せしています。

訪問が年に3回だけなので、私に関わるのはどうしても一つの単元について一回きりのパターンになります。そのため本日で学習した内容が次週、次々週に生かせるように、今後のプランをいくつかHRT(または英語担当の先生)に提示しています。

さまざまな学校でさまざまなHRTやALTと出会い、いろんなパターンの授業形態による活動をするのは、毎日が勉強であり大変貴重な経験となっています。



■ 今後の展望、上級指導者資格を目指す方々へのメッセージ

J-SHINEの資格を取得したら学校現場に入れるとは、必ずしも限りません。その理由の一つに、文科省が英語活動は担任主導であるべきとうたっていることがあげられます。小学校英語が導入された初めのころは「英語が苦手なのでどうしたらいいかわからない」「英語を教えることになるとは思っていなかった」という先生方の声もありましたが、小学校英語が必修化され、2020年には教科化される今となっては、先生方はたくさんの研修を受けられ、デジタル教材を使うなどしてHRT一人での授業もされています。

そんな中、資格を持った方が現場に入るためには、学校との信頼関係を築くことが非常に大切です。たとえばPTAの役員になったり、読み聞かせの会などのイベント、登下校の見守りのお手伝いをしたりするなどして、先生方に顔を覚えてもらい、機会があれば英語活動のお手伝いをしたいことをアピールすることが有効です。まずはそこからチャンスを広げるといいでしょう。

子どもたちがキラキラした瞳で「楽しかった」「英語でなんて言うかわかった」「これ、もっとやりたい」と言ってくれる声を聞くのは、指導者として何事にもかえがたい喜びです。子どもたちが楽しく学べる環境を提供し、国際理解を深め、社会貢献できる大人になれるよう手助けできればたいへん幸せです。

* J-SHINE 通信 Web ページ

この2015年6月号をはじめ、過去に発行したJ-SHINE通信はすべてJ-SHINEのWebサイトから配信しています。

こちらからご覧ください。

<http://www.j-shine.org/tsuushin.php>